

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

③

私の住まいは住田町の北隣、遠野市上郷町である。最近まで四十数年もの間、遠野の中心地に通勤しておりました。

ある晩秋の晴れた日の帰りに、東の方向に白く輝いている山があるのに気がつき、その山の名称が何で、どの辺であるか即座に特定ができず、手元にあった道路地図を開いて探したところ、五葉山系の黒岩から山頂にかけて開けた高原地帯が西日で輝いていたものでした。

何年となく通勤していたが、遠野の平地から五葉山が望めることを確認した瞬間でした。この山には今まで何回となく足を運んでいました。歩いたコースも色々で、住田町の檜山、黒岩コース、釜石市の大松、櫛ノ木平コース、大船渡市の赤坂、大沢コースのほか、愛染山などにも気が付かせてもらいました。



それぞれのコースは、その季節や気候によって千変万化しており、自然が織り成す森羅万象をその日の体調や気分によって、自然の魅力を享受してまいりました。人間の存在は、自然界にあっては地球上の一員に過ぎないのに、地球社会全体のサイクルを制しているような錯覚に陥ってはいないだろうか。山という自然の懐に入ってみると、人間の存在は如何に小さいか思い知らされることとなる。このことは個々人それぞれが異なるので、これ以上

最近気になっていること

遠野市上郷町

荻野 七朗

の言及は控えます。

主題である「気になっていること」ですが、「五葉山の魅力は」と問われれば、一言に集約すると「雄大な自然」でありましょう。

春のツツジに始まって、初夏のシャクナゲなど高山植物の数々であり、ヒノキアスナロの群

生を筆頭に、ミズナラやブナ、ダケカンバは当然として、一木一草が生態系を維持する要素として機能しているのを見逃せません。

その生態系が危うくなっているのではないのでしょうか。五葉山に棲息するホシシユウジカが存在は相

その他の灌木も既に淘汰されてなくなり、新しい樹木の生育が追いつかなくなっているようです。テリトリからあぶれたシカは山々を越えて遠野地方にも進出して、農作物に被害を及ぼしていると聞きます。

ほかに、平成十八年九月に襲来した台風による倒木、日の出岩周辺のツガの枯れ具合、「あすなる山荘」登山口から黒

世間では地球の温暖化現象による生態系の変化を危惧する声もありますが、大声の割合には実行が伴っていないと思います。

立木が枯れるとか、シカの被害が出るなどということは、大自然のサイクルによる何年かに一度現れる輪廻であって、気にかけるほどのことではないとすることを願うばかりです。

【執筆者プロフィール】
遠野市上郷町在住。六十七歳。「五反百姓をしながら、健康のためのウォーキングの普及に努めている」という。今年六月から九月までの四カ月間、住田町内の学校や郵便局で「かけがえのない自然を大切にしよう」(愛する五葉山)写真展を開催した。



日の出岩付近のコメツガ林。すっかり枯れ、倒れる寸前。救われるのは根本に二次林が形成されていること